

稲刈りは25日（土）に……豊作を期待

私たち市民協議会が支援している広町田んぼの会が、第一次の稲刈りを25日（土）午前9時から、やることにしました。子どもでも指を切らない稲刈用の鋸鎌（のこぎりがま）を用意し、市民に参加を呼びかけています。



稲穂はスズメ除けに張りめぐらしたネットに守られて＝写真右下、重く垂れ、黄ばみ始めています＝写真左。この夏、鎌倉地方では8月初旬から1か月以上も日照りが続き、干上がりかけた田んぼに連日、川の水をポンプで汲み上げて給水する労苦が続きましたが、稲は順調に「実りの秋」を迎えようとしています。

月初めに、穂を1本抜き

取り、実っている籾粒を数えたら、141粒ありました。100粒以上が平年作といわれるから、豊作が期待できます。



早生種を育て、稲刈りが早まる

刈り取った稲を、日光に当てて乾燥させ、脱穀し、籾を除いて玄米にするまで、1か月以上かかります。去年は10月4日に稲刈りをしましたが、11月中旬に催した収穫祭にピッカピカの新米を提供するために、たいへん忙しい思いをしました。

ことしはうるち米の品種を変えました。去年までの中生種に代えて、早生種のキヌヒカリの種籾を育て、約6アールの田んぼの約5アールに、その苗を作付けしました。だから去年より1週間余り、稲刈りが早まります。それが第一次稲刈りです。

残りの約1アールでは、もち米を育てていますが、もち米には適当な早生種がなく、中生種のマンゲツモチを作付けしたため、それを刈り取る第二次稲刈りは、去年と同じ10月初旬になります。